

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170900274		
法人名	有限会社ハートフル拓愛		
事業所名	グループホーム 武芸川 あかね (池の下ユニット)		
所在地	岐阜県関市武芸川町八幡字池ノ下419-1		
自己評価作成日	平成24年10月11日	評価結果市町村受理日	平成25年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2170900274-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成24年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境にも恵まれた閑静な住宅街に立地し、木造で家庭的な安らぎのある雰囲気の中で、利用者様の、安心と穏やかな生活を、支援し、全職員が、利用者様本位のケアを心掛け環境作りに努めている。また家族会が、組織され職員、家族、ボランティア幼稚園児とは、なごやか定期交流するなど自然と話しやすいホームになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、高齢者が住み慣れた地域で、安心して生活を送ることができるように、支援をしている。開設以来続いている、家族会との協力関係を基に、サービスの質の向上に取り組んでいる。家族会は、利用者と事業者の立場を越えて、意見を交わし、よりよい事業運営に反映させている。ホームが誇る、温泉並の大浴場では、利用者の心を癒し、健康的な暮らしに効果を上げている。職員会議では、利用者支援のあり方について、気づきやアイデアを出し合い、利用者本位の暮らしができるように支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(池の下ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営方針、運営理念は、毎月の職員会議の冒頭で全員で声に出して確認、共有し利用者の気持ちに寄り添い、日々実践に繋がっている。	毎月の定例会議で理念・運営方針を全員で唱和し、管理者は、理念をより具体的な言葉で伝えている。理念を、日々振り返り、住み慣れた地域のなかで、一人ひとりの気持ちに寄り添う暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアとして地域の方々に来ていただいたり、近隣の方を職員として採用したり、地元の商店との取引等を通じ、交流に努めている。	自治会主催の防災訓練に参加したり、地域の清掃行事には、ホームの周辺の清掃を担当している。また、幼稚園児や、地元ボランティアとの交流を定期的に行っている。	さらには、地域密着型サービスの意義をふまえ、地域との日常的な交流ができるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方々に来て頂いた時などは、利用者や触れ合えるような方法をお願いしたり、利用者、職員と共におやつ、食事を一緒にしたり、普通の生活の中から理解していただけるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、行政・地域関係者・家族が参加し、事業報告に対する評価や、利用者の状況、状態などを報告し、意見を聞き、外出行事などの事業運営に反映させている。	会議には、民生委員をはじめ、敬老会役員や関係者多数が参加している。地元花火大会への協賛の提案があり、実現している。また、多様な外出支援についても検討し、サービスの向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者に必ず出席していただき、行政の情報や助言を受けている。地域包括支援センターや市主催の会議や研修には、出席し福祉情報を得たり、空き情報の提供などをして協力関係を築くように取り組んでいる。	日常的に連携をとり、相談事、困難事例、法改正など窓口に出向き助言を受けている。行政や地域包括支援センター主催の会議等では、情報を交換し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為をしっかりと認識し、拘束のないケアを行うよう、職員会議等でも確認し、やむを得ず必要が生じた場合は家族の同意を書面で得ることにしている。日中は施錠をしていない。	身体拘束や、心の拘束につながる言葉にも十分に注意を払い、拘束のないケアを実践している。思いや意向を尊重し、見守りと寄り添う支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で取り上げ、職員間で研修したり、外部研修を受けたりし学ぶ機会を持つようにしている。日常生活に於いても虐待が見過ごされないように注意を払って防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム武芸川あかね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などを受講し理解するようになっているが、具体的に成年後見制度等を活用できるような支援は今のところ、行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人・家族の希望を聞き、ホーム見学等をしていただき、十分な説明を行い本人の理解・納得を図ってからサービスを開始している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1日に「おやつ会」を開き、利用者と一緒に楽しみを共有し、思いを感じとれるようにしたり二か月に一回「家族会」を開き、職員と家族や家族同士も意見を交換しあったりし、それらを運営に反映させるように心掛けている。	利用者の意見を聴く、寄り合いの会を設けている。また、家族からは、家族会の開催日に、意見・要望を聞いている。事業所との信頼関係を深めるなかで、些細なことも受け入れ、サービスを改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を開き、業務の見直しや様々な意見交換したり、ヒヤリ、ハットのメモを設置し、気づいた時にはすぐに記入出来るようにしており、職員全員に会議などで図るようにしている。	毎月の全体会議で意見を交換している。風邪等を予防するために、冷暖房や湿度の適正な管理を話し合い改善している。また、事故防止に関しても対応を検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の資質向上の為、それぞれが、テーマをもち勤務に取り組んでいる。それを評価し、個々各自が希望、向上心を持って働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修などに職員は順次受けるようにし、研修報告等により、情報を共有し、研鑽しあえるように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会中濃支部に加入しているので、支部会出席の折などに同業者と意見・情報交換・交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族の希望を聞き、ホーム見学等をしていただき、本人がなるべく納得されてからサービスを開始している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り家族と連絡、面談し、関係作りを図りながら傾聴に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主治医の意見も参考にしながら管理者・ケアマネ、職員も交え、本人の必要としているサービスについて検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おやつ、食事等生活を共にし、日常会話を中心に声かけをしながら、お互いの信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出行事等は、共に過ごしていただいたり、家族会での話し合いや、来訪の際に近況報告をしたり家族との絆を大切にしていだけるよう、常に身近な存在として協力しあい本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊の折には、馴染みの方に会ってきていただいたり、門戸を開放し、友人等にもいつでも遊びに来れるようにし、今までの関係が途切れないように支援し、近くの商店、喫茶店等外出の機会も作り新たな関係も築けるよう支援している。	家族、友人、近所の人など多くの面会者がある。畳の居室で、ゆっくり話しができるように、お茶を出し、もてなしている。外出時に出会いの場を設けたり、新たな関係づくりに努力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者各自の相性や好みや癖等を把握し、居室や食堂・居間での配置等を配慮したり、なるべくリビングで過ごしていただき、お互い関わり合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外出行事等にお声を掛けたり、今後のことなど相談等ある場合には、出来る限りの支援を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活のコミュニケーションから一人ひとりの思いの把握に努め、会話だけでなく、表情、仕草などにも気を配り本人の思いを汲み取るよう努めている。誕生日のプレゼントなどは一緒に買物に行き、希望の品物を選ぶなどしている。	入浴介助などでの会話から、思いや意向を把握している。困難な人には、表情や動きに気を配っている。思いや意向は、できるだけ暮らしの中に取り入れるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活のコミュニケーションや家族からの聞き取りや会話などから把握に努め、職員間で情報を共有し、ケア、サービス利用がより本人の生活に役立てるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、夕の申し送りや各人の毎日のケース記録・バイタルチェック・主治医の往診、コミュニケーション等により、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で本人の状態、希望等を検討し、情報を共有しながら、本人・家族の意向も取り入れて介護計画を作成している。随時、家族やかかりつけ医と相談し、見直している。	利用者、家族の意向をもとに職員会議で検討し、介護計画を作成している。また、モニタリングの結果、状態に変化があれば、家族や関係者で話し合い、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝、夕の申し送り、個人ケース記録、ヒヤリ、ハットの検討など、職員会議等で情報を共有し、利用者の小さな変化にも対応できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態、家族の状況に応じて病院受診や往診、屋内行事、レクリエーション、外出支援、季節の応じた行楽地などへの日帰り旅行、食事会等を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に一回、幼稚園児との交流会をしたり、徐々にではあるが、地元地域のボランティアなどきていただけたりして交流ができてつつある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、適宜、連携を図り介護に生かすようにしている。二つの協力医より、それぞれ月2回の往診によって適切な医療を受けている。歯科医は週に一回の往診で適宜、治療、指導を受けている。	入居時に、かかりつけ医と協力医について説明し、理解を得ている。協力医による定期の往診体制がある。病院への受診は家族に委ね、緊急時は、職員が受診に同行している。歯科医も定期的な往診があり、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、夕の申し送りをし、日常の様子、気づきなど情報を共有出来るように努め、職員会議で意見交換もしている。早期発見に心掛け、重度化しないように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時なども随時病院に行き、状態を把握し、病院関係者、主治医、家族とも相談し、本人にとって最良の方法がとれるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から家族の意向を聞いたりし、最後まで見てほしいとの願いがあるが、重度化への移行期に於ける介助、介護方法や心掛け、医療との連携やマニュアルの整備が必要である。	契約時にホームの方針を説明している。重度化や終末期の対応について家族会でも度々取り上げ、ホームとしてできること、家族に協力を求めること等を、具体的に話し合っているが、方針を関係者で共有するまでに至っていない。	重度化や終末期に向けた対応を検討しているが、家族や関係者が早い段階で十分に話し合い、方針を共有できるように期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導の下で、応急処置、AED使用方法、消火器使用法など訓練している。応急手当の方法のマニュアルは、すぐに参照、閲覧できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下で、年に2回職員全員で避難訓練を実施している。地域の避難訓練に参加し、避難場所の確認、警察署には、入居者・職員の名簿を提出している。夜間対応など地域との連携、協力が必要である。	年2回の火災訓練を実施し、1回は消防署が立ち会い、夜間を想定した避難訓練を実施している。地域の災害訓練に参加し、地域とは、相互協力について話し合っている。避難場所や備蓄を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、トイレ介助ではカーテンをしたり、扉をしめたりし、声掛け、言葉遣いに配慮するようにして、羞恥心やプライドを損ねないようにしている。	トイレや更衣室にはカーテンを設置し、羞恥心に配慮している。生活の場面では、誇りを損ねない言葉かけを行っている。人生の先輩として敬う気持ちで、ゆとりを持ち、笑顔で対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ飲み物は、メニュー表から選択したり、月に一度「パンの日」に好みのパンを食べたり出来るようにしている。日常的に会話を大切に、月に1回「おやつ会」を開き、気軽に話が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、おやつなど共にしたりして、コミュニケーションをとり一人ひとりのペースを大切に、ゆったりと過せるように見守り、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの馴染みの衣類をなるべく本人の選択により着用していただいている。入浴後の衛生チェック、髭剃り等を実施している。定期的に理容師の方に来ていただいて散髪をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼、夕食前には、口腔体操を実施し、嚥下機能を高めている。職員も同じものを一緒に摂り、出来るだけ自分の力で、食事が摂れるように支援、見守りしている。下膳、片付けなど利用者に関わっていただいている。	一人ひとりの好みや、嚥下能力に合わせて、調理している。職員も同じ食事を摂り、咀嚼やペース配分に気を配りながら、楽しく食事できるように支援している。食後は、下げ膳や片付けを自主的に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算は、していないが、一人ひとりの状態に応じ刻み食にしたり、とろみをつけたり、量を調整している。月に一回体重測定を行い状態の把握に努めている。必要な時には、夜間、水分補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じて、声掛けや義歯清掃など口腔ケアをし、夜間はなるべく義歯をはずして休んでいただいている。必要に応じ、歯科医の往診による口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で、個々のパターンの把握に努め、声掛けや、介助を行い、失敗など少なくなるように支援している。便通など出来るだけ薬剤に頼らないようにしている。	排泄チェック表をもとに、さり気ない声掛けで、トイレでの排泄を支援している。夜間もトイレ誘導を行い、オムツの使用を減らしている。カテーテル(導管)を付けた人にも、トイレでの排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの状態に合わせた声掛け、水分補給の配慮、規則正しい食生活をし、栄養バランス等にも配慮したりしている。又、散歩など運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴を実施し、入浴順は、男女別にいつも同じにならないように配慮している。檜の浴槽であり、ゆったりとした気分で楽しんでいる。	週に3回の入浴日があり、男女は別々に設定している。檜材の浴槽で、ゆったり温泉気分を味わってもらっている。機械浴の設備もあり、希望に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天候の良い日には、順次、布団干し、シーツ交換をし清潔な寝具で気持ちよく休んでいただけるよう支援し、起床時間や午睡は、本人のペースでしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	間違い、飲み忘れなどないように毎服薬チェックをし、毎朝、本人と話しながらバイタルチェックをして体調、症状の変化の確認、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝い、畑仕事、草引き、買物手伝いなど一人ひとりが、出来ることをしている。外出行事などを楽しんだり、音楽療法士、落語やボランティアの来訪を楽しみにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせ、近郊の散歩や買物に同行したり、喫茶店などに出かけている。外出行事などに年に数回行い、家族会やボランティアの方々の協力を得ながら、全員が、外出出来るように支援している。	ホームの周辺を日常的に散歩し、四季を満喫している。近くの地蔵や、神社へは、日時を決めて参拝している。普段行けない場所へは、家族会やボランティアの協力で、計画的に出かけている。	

岐阜県 グループホーム武芸川あかね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、ホームで管理しているが、外出時など、本人の希望する物など買ったり出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状、電話は自由には、使用できないが、本人から要請があれば、取次などできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造で落ち着いた共用空間には、季節の花を飾ったり、行事の写真や作品を展示している。リビングは、大きな窓で、季節を感じる風景を眺めることができる。不快な音や光などもない。	木造建築の木の香りが漂い、安らぎのある落ち着いた空間である。また、天井は高く、大きな窓からは、季節の移ろいが見える。家具類は、地震対策を施している。空調は、感染防止機能を備えた機器を導入し、快適な共用空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを設置し、思い思いに過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は、異なる模様の暖簾を掛けたりして、自分の部屋を認識できるようにしたり、入口を開けていてもプライバシーを守るようにし、畳敷きでくつろげ、個々に、使い慣れた馴染みの衣類など本人が、使用し易いように配置し、安心して過ごせるように配慮している。	畳の居室には、ベッドや和式の寝具を、希望に応じて配置している。壁に手作りの作品を掲示したり、家族の写真を飾り、安心して過ごせるように工夫をしている。入り口に好みの暖簾、手作りの表札を掲げ、自分の部屋を認識できるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせた居室内の物品の配置をしたり、手すりを取り付けている。トイレ、表札等、わかりやすくしている。		